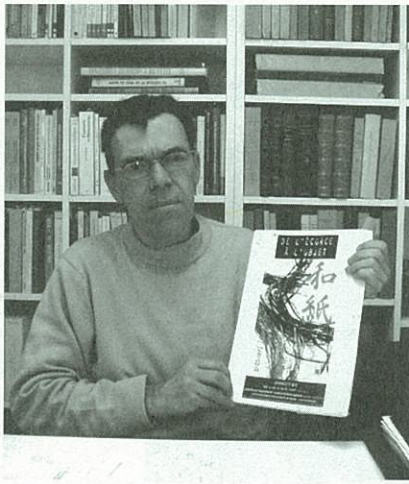


和紙

だより

越前和紙への提言



■ portrait de François Gonse

フランソワ・ゴンス氏は、1900年のパリ万博以前に、「L'art japonais」（日本美術）という本を出版し（1889年）、フランスでのジャポニズムに火を付けたルイ・ゴンスの子孫。ゴッホ、ゴーギャン、ロートレックを始め、フランスでのジャポニズムの興隆はその後のフランス印象派やエミールガレなどフランス美術界に多大なる影響を与えた事はよく知られている。日本の和紙の本を出版する目的でここ数年和紙の産地を回り調査をおこなっている。現在49歳、フランス・プルトーニユ地方の中心地レンヌ在住。ソルボンヌ大学文学博士号取得。日本文化スペシャリスト、コンサルタント。

1996年、パリで開催された「唐紙」の展覧会のパンフレットを持つゴンス氏

■ フランソワ・ゴンスさん

（日本文化コンサルタント）
「生活の中で活かしてほしい和紙の文化」

● フランス人にも分かりやすい和紙の本

私の和紙に対する興味は偶然のことではなく、私の祖先にルイ・ゴンスがいたということが大きな動機となっているでしょう。私のアプローチは、日本文化というものを美術、料理、和紙、心理学などの複数の手がかりから、具体的なプロセスなどを示して追うというやり方です。様々の様相は全てのものが日本文化に迫るのに総合的に関係してくると思うのです。フランスにも和紙の歴史の本は二、三出版されていますが私も持っていますが、大変アカデミックな研究書で一般の人には少し取っつきにくいものです。また、一般向けの本は反対に表面的なものが多く、和紙の技術や材料、職人のことなどについて紹介している本はありません。私は、フランス人が日本文化に触れようとするとき、いつも具体的な生活の中でそれを理解してほしいと願っています。しかも具体的な事象の裏に、文化的根源的な意味づけや神道等のシンボリック（象徴的）な思想などが裏打ちされ、語られているような本を出版したいのです。フランス人は日本文化の「自然と共生する」という暮らし方は大変好きですが、具体的な模様一つの中にもその背後に実は神道というものがあ、思想や哲学があり、世界観があるというところまではみんな知りません。そういう意味では、フランスの一般の人にも分かりやすい本は未だないのです。和紙は私にとって日本文化を理解するのに具体的に良いテーマの一つなのです。

● 具体的な事例から

フランスでも、伝統的な職人仕事や技術は、最近では失われる傾向にあります。それは、

技術がなくなるというだけではなく、そこに反映されていた人の感情、歴史、暮らしぶりが失われたいことを意味します。私にとってはそれはとても残念なことで、ある意味で世界の感性の多様性を失うことを意味します。ここ数年日本文化に深く関わる和紙の研究をしているのですが、和紙の様々なディテール（細部）の中からいろんなものを具体的に見ていきたいのです。例えば、現場に行つて作られる過程や技術を取材したり、生産されている場所の雰囲気、和紙を使った作品も作り方やそれに使う紙の情報、作品が成立している歴史的な背景、暮らしに取り入れる楽しいアイデアなどを紹介したいと思つています。ですから実際現場に行つて取材して回るのは、私にとつては必須の作業なのです。産地を回っていると、本だけでは得られない知識や日本人にはごく普通のことでも、外国人から見ると「何故？」という疑問が沢山湧いてきます。

● コミュニケーション・ツールが少ない

今回で日本に来るのは数度目になりますが、今までに土佐、因州、鹿児島、今回は、土佐、出雲、阿波、今立などを回りました。和紙をずっと作り続けてきた家が絶えたり、家業を辞めたところも多いと聞いています。産地の方は、みんな口々に日本の政府は何もしてくれない、段々このような伝統産業はうち捨てられていくのだと言っています。

産地にはそれぞれ和紙のセンターがあるところも多いのですが、一つ感じるのは、せっかく歴史も面白い仕事をしてくれているのに、コミュニケーションが良いところが少ないように感じます。内輪で作っているだけで、一般の人に対する情報をきちんと流しているところが少ない。イギリスでもフランスでも問屋さんや一般の人が和紙の様々な情報を得るのに大変苦労しているのです。

私が思うには、伝統を継承して作り続ける人と、もつと産業の周りのことに気をかけてプロデュースする人とはメンタリティ（感じ方、考え方）が違うような気がしています。私は、外国人ですから、日本の和紙産業の構造までには深く立ち入ることはできませんが、マネージャー的な人が必要なのではないでしょうか？ コンサルタントと言っても良いのでしょうか？ これらの方達と良い組み合わせが出来れば、和紙産業も良い方向に向かっていくのではないのでしょうか。

● フランス人も大好きな和紙

フランスにも和紙を扱っている店があり、私の住んでいる街レンヌにも美術学校の近くに「メゾン・ジャポネー日本の家」という和紙を売っているお店があります。阿波紙を置いています。そこで売られている和紙は大変高いものです。いわゆる厚手の和紙らしい和紙といいますが、白くて長い繊維を漉き込んだ紙が好まれるようです。黒澤などのフィルムを見て日本文化に影響されたアーティストなどが和紙を造形作品に使ったり、茶室に憧れて自分で見よう見まねで茶室などを造つてみたり、概して和紙のファンはインテリ層が多いです。「Tatamisier（タタミゼ）」日本風な暮らし方を「というフランス語もあるくらいです。

計画している本では、第一章で和紙の製作工程（材料、しわなどの加工の仕方、印刷などの載せ方）、第二、五章では習字、版画、日本画、墨流し、ちぎり絵、切り絵、型紙、張り子、折り紙、結び、包み、インテリアの中の和紙などを紹介し、作り方も載せるのが味噌です。そしてその背後にある模様の意味、水のシンボリックな意味、立ち居振る舞いの意味、祭事の意味などの文化的情報を解説します。和紙を通して日本文化へのオマージュ（讃歌）になると思いますよ。

日本一の品揃えを誇る和紙好きの拠点
「紙の温度」名古屋市熱田区



●創業

名古屋市熱田区の国道沿いに元倉庫を改装したピンクの目をひく建物の中に「紙の温度」はある。和紙のぬくもりを多くの人に感じてほしいという願いを元に命名された。

親会社は慶応年間から和紙を扱う卸し問屋だったが、現在ではティッシュ、トイレトペーパーなどの家庭紙を扱っている。十年余り前、和紙の売上が時代と共に落ち込んでいく中で新規事業を考えていた時、社長の花岡さんが黒谷和紙と出会い非常に感銘を受け、伝統ある手仕事である和紙の文化を伝えていきたいと考えた。今一度創業に立ち返り新たな視点で和紙とその文化を伝え提供すると共に、女性スタッフが活躍できるビジネスを、というのも立ち上げの条件になったと副店長の城（たち）ゆう子さんは言う。

平成五年三月にオープン、今年で九十一年を迎え、全国の和紙（北は北海道の笹紙から、南は沖縄の琉球紙まで）を始め、アジアの手漉紙（中国、インド、タイ、ネパール、ミャンマーなど）、ヨーロッパの手漉紙（アメリカ、イギリス、オーストラリア、フランスなど）が置いてあり、どれも自らの足で探して選んできたものだ。その他に、作品展示のギャラリー、紙にまつわる材料や道具のコーナー、紙の小物類、書籍閲覧コーナー、紙漉きが体験できる工房、自由に使える紙の裁断コーナー、教室などがある。中二階には、見ているだけでこれ何を作ってみようかと考えたい創造力を刺激される作家もの、工芸紙、オリジナル和紙、クラフトもの、金唐草紙など貴重な紙が並び、越前の奉書紙などはここに置いてある。



■副店長の城（たち）ゆう子さん。王朝継ぎ紙を手に

●客層

スタッフは女性ばかりで十人。プロ、アマを問わず親切にお客のイメージする紙と一緒に探してくれる。紙の知識は複雑で難しいが特に社員研修制度などは行っていない。日々の仕事の中でお客さんと対話しながら次第に覚えていったり、産地を訪れ現場を知ることによって知識を得ることも多い。

お伺いしたのは土曜の朝というのに開店直後からお客さんが多く入っている。折り紙や切り絵教室の先生が教室で使う材料を買いに来る方、和菓子や飲食店のディスプレイやランチョンマット等の業務用の和紙を探しに来る人、建築家やインテリアデザイナーが自分の作品に和紙を使ってみたくて大きな紙をまとめ買いしていく人、自分の作風に合う紙を探している版画家や書家、結婚式の招待状にオリジナルの素敵な案内状を作りたいという若いカップル、紙でドレスを作ってみたくてというファッション関係の人など、対応しているような風が紙が使われるのかのアイデアの宝庫だという。自分だけの特注の紙を漉いてほしいという別注依頼の相談にもなっている。お客さんの中には開店から閉店まで一日中店内の紙をくまなく見て回る人もいますという。



■約百坪の店内には整然と和紙が並べられている

●重要な文化発信

紙という素材だけ売って年商一億二千万だが、紙のファンを開拓するための文化的な試みには力を入れている。紙の可能性は切る、ちぎる、結ぶ、包む、揉む、書く、綴じる、染める、など多様である。可能性を知ってもらい生活用品、装飾品、趣味として活かしてもらいたいからだ。そこに紙の伝統文化を伝える喜びもあるという。例えば、伊勢型紙の版画、和紙表装、折り紙アート、和紙絵、草木染、和紙作り、等、多彩な教室を開催している。

若い層や三十代の主婦やOLに興味を持ってもらうための新しいトレンドも見逃さない。西洋の書道、カリグラフィ、英国で発展したペーパークラフト、ケイリング、フランスの手製本技術、ルリユール、フランスの製箱技術、カルトナージュなどの教室も開催し、ひと味違ったトレンド的な紙の世界を紹介している。平安時代にあつたがその技術が失われてしまった「王朝継ぎ紙」の教室は最近の人気教室の一つだ。料紙を切り継ぎ、破り継ぎ、重ね継ぎ、金箔、銀箔をほどこした紙は、いわば紙の宝石。箱にしつらえてみると、さながら玉手箱のような面もちになる。この紙は西本願寺の宝物の中にもある由緒正しき紙だという。

■手の込んだ工芸和紙を置く中二階



取り組み紹介

「無添加リフォーム」

(京都)

京都でいち早く「エコリフォーム」を立ち上げた会社がある。京都市西部アップリフォームセンタージャパン(株)のショールームを訪ねた。www.mutenka.com

●研究と研修活動から

地球環境と住む人の健康をテーマにした「無添加リフォーム」は、昨年七月建築基準法が改正され、シックハウスに対処した施策が打ち出されたことへの対応から始まった。建材の見直し、方向性の見直しを行った結果、健康志向のリフォームに力を注ぐこととなった。エコリフォームの立ち上げに際しては、関東のリフォーム会社が「エコリフォーム推進協議会」というNPOを設立。インテリアデザイナー、建築家、リフォーム会社など四〇〇社が会員となり、健康志向の住宅について研究会を行い、大工さんなど協力業者の研修制度も設けている。アップリフォームの社長はこの会の立ち上げメンバーの一人なのである。

●無添加リフォーム

エコ・リフォームと言っても、勿論施主には値段との兼ね合いがあるので、ここでは三つのランクを設けている。従来、あやふやだった価格体系もブランドを設定することでユーザーにもわかりやすくなった。

一、ホルムアルデヒド対策などの建築基準法をクリアし、ビニールクロスを廃止したリフォーム

二、居住時間の永い居間や子供部屋に推奨している中間のエコ・リフォーム

三、床、壁、天井など独自の厳しい基準をクリアした「無添加リフォーム」

第三段階で使用される素材は、調湿効果のある桐や竹などの天然無垢材、防音、耐火性、断熱性に優れ、脱臭効果があり、土に戻る珪藻土、天然イグサ、非化学系接着剤、塗料など、有害物質を出さず、空気の浄化作用があり、地球環境にもやさしいものが使われる。

これらは業者が持ち込んでくるものを鶴呑みにせず、独自の試験データを取ってから採用する。価格は第一段階を1とすると、第二段階は1.2倍、無添加リフォームでは1.5〜2倍くらい。

●ユーザーの意識

リフォームの市場の活性化に一役買ったのが、人気テレビ番組「Before/After」だと言う。ユーザーもリフォームというものは、かなりのお金をかけて大がかりにするのが、良いという価値観を持ちつつある段階。エコに関する知識も、実際にショールームで触れてもらい、丁寧に説明することで当初よりワンランク上のリフォームを採用するケースが多いという。健康住宅、バリアフリー、環境にやさしいという三つのコンセプトは、この業界でも必須となってきた。

●有望市場に向けて

シックハウスが問題視されて十年余り、想像している以上にその影響は深刻な事が最近の研究でも明らかになりつつある。目のチカチカ、のどの痛み、慢性的な頭痛、吐き気、アレルギー、自律神経失調症等の他、脳の中枢神経がやられるため、子供の知能の発達障害や感情をコントロールする脳機能の遅れなどが報告されている。いわゆる「すぐキレル子」が多いのもシックハウスが一因だとさえいいう意見もあるほどだ。

現在国内の環境壁紙・襖紙市場には、再生紙利用、い草和紙、備長炭入り、ケナフや珪藻土入り、オーガニックコットン入りなどの素材が販売されている。アップリフォームでは目下の所、壁紙は木綿壁紙というクロスが主体だが、呼吸し、匂いや有害物質を取ってくれる和紙の壁紙、障子紙、襖紙などの機能と紙は有望だという。リフォームという成長著しいこの市場に和紙の本格的参入を研究する必要があるのでないだろうか。

■各種教室を紹介するコーナー



■紙の温度

名古屋市熱田区神宮2-11-26
電話 052-671-2110
FAX 052-671-2810
URL <http://www.kaminoondo.co.jp>

●お客の求めているものによく耳を傾ける
「紙の温度」のように和紙の世界では後発であっても、お客さんの探し求めているものに耳を傾け、彼らの代弁者として機能するのがこのショップの役割の一つだ。別注の分野では、こうしたお客の要望を直接産地の人と打ち合わせながら開発する機会も増えてきた。様々なターゲットに紙文化の情報発信を続けてきた結果、若い人の中に、従来の伝統技術にとられず紙の世界に飛び込んで修行する人が出てきたのは明るい兆しだという。自分の主張する紙、感性を表す紙、オリジナルの紙を漉きたいという人たちは、考え方も柔軟で新しい紙を作るのに意欲的な人たちだ。こういった人たちと産地の人とお見合いさせることによって、新たな素材としての紙の世界が広がっていくのだ。生の紙を売ることはいわばハーフメイドの紙を売るには、新しく入ってきたこれらのお客の興味と創造力を刺激し彼らの創造力をサポートしていくことが重要なのだ。このお客は自分で作ることが好きな人たち。単品の完成品よりは、何に使われるのか分からないけれども、生の紙そのものにこだわっていくのが「紙の温度」の使命なのだと考えている。「お客さんが、私達が考えもしなかった想像を上回る使い方をすると見るととき、いつも感動を覚えます」と城さんは語ってくれた。

おいしい空気 癒し計画

無添加リフォーム

www.mutenka.com

無添加リフォーム <床・壁・天井>

人にやさしい、環境にやさしい
たくさんのお素材の中から何を調べたいの？

天井材
壁紙
床材

天井
壁
床

天井材(石膏ボード)
石膏ボードは、火災時の煙や熱を吸収し、燃焼速度を遅延させる効果があります。また、天井の断熱性能を向上させ、省エネに貢献します。

壁紙
紙は、呼吸し、匂いや有害物質を取ってくれる機能があります。また、自然素材の壁紙は、調湿効果や断熱効果も期待できます。

床材
床材は、部屋の雰囲気や快適性を左右します。無添加の床材は、ホルムアルデヒドなどの有害物質を含まず、健康的な生活を送ることができます。

無添加リフォームのメリット
健康志向の住まいを実現するための第一歩は、無添加リフォームです。健康志向の住まいを実現するための第一歩は、無添加リフォームです。

無添加リフォームのデメリット
無添加リフォームには、通常のリフォームよりもコストがかかる場合があります。また、施工期間が長くなる可能性があります。

無添加リフォームの施工例
無添加リフォームの施工例をご紹介します。健康志向の住まいを実現するための第一歩は、無添加リフォームです。

無添加リフォームのお問い合わせ
無添加リフォームの施工例をご紹介します。健康志向の住まいを実現するための第一歩は、無添加リフォームです。

無添加リフォームの施工例
無添加リフォームの施工例をご紹介します。健康志向の住まいを実現するための第一歩は、無添加リフォームです。

和紙の本

■すぐわかる和紙の見わけ方

久米康生著

平成15年11月 東京美術刊

2,100円(税込)

「和紙人形やちぎり絵を始めてみたい。かな書道を練習してみたいなど、趣味の世界で和紙を楽しみたい人や、壁や照明などインテリアで和紙の素材を求める人など、和紙の愛好家が増えてきました。しかし、実際に和紙を買いにでかけても、越前紙や土佐紙など産地名のついた紙がズラリならんでいて、用途に適した紙を見つけるのはなかなか難しいと思います。本書では、日本の主要な和紙産地を選び、その紙の特徴、用途などをまとめ、見るとき、買うとき、そして使うときに役立つような内容を盛り込みました(本書「前書き」)」

著者も述べるように、和紙愛好者のすそ野が広がり、和紙の用途もますます多様化する中で、自分の目的に合った紙を選ぶのは、普通の人にとって簡単なことではありません。この本は、見開き2ページをひとつの産地または紙にあてて、カラー写真をふんだんに使いながら、それぞれの紙の特徴、加工例・作品例やそれぞれの産地や紙にまつわるエピソード、コラムなどで構成し、楽しく読みながら和紙の知識を深めたり、和紙を購入しようとする際の参考となるよう作られています。

しかし、この本でもページの構成は日本全国、北から南へ順にたどる「産地別」となっており、その点では「購入ガイド」としての便利さは、まだ十分とは言えないようです。和紙が産地名や独特の伝統名で呼ばれる背景には、ひとつの紙が多様な用途に利用できることがあります。和紙を購入する側からすれば、用途別・風合い別などの分類や索引があればもっと便利になるとおもわれます。

和紙を買う人を意識した解説書として、優れた着眼点を持つ本書は、これからの和紙市場開拓へのヒントになるのではないのでしょうか。



●イベント情報

8/7~8/22

いまだてクラフト展 卯立の工芸館(福井県今立町新在家)

8/19~8/31

日本の誇り・伝統工芸人間国宝作品展 全国伝統的工芸品センター(東京 池袋)

9/4~9/6

新越前屋展 青山291(東京 青山)

9/18~9/20

丹南産業フェア サンドーム福井(福井県武生市)

10/8~10/11

きんぎ伝統的工芸品フェア インテック大阪(大阪市)

10/13~10/16

東京いまだて物語 港区エコプラザ(東京 虎ノ門3-6-9)

11/3~11/7

伝統産業月間福島大会(福島県会津若松市)

11/14~11/28

2004今立現代美術紙展 いまだて芸術館(福井県今立町栗田部)

※なお、以下のイベントは水害等の影響で、中止となりました。

9/18~9/19予定 いまだてまつり(福井県今立町)

10/23~10/24予定 かわだ・いまだて里めぐり(鯖江市・今立町)

●組合取り組み事業

(仮称)新しい和紙・開発支援プロジェクト

和紙は伝統産業、伝統工芸であるとは言え、市場においては通常の商品と変わりなく、消費者の厳しい選択にさらされます。魅力ある紙、新しい紙を積極的に市場にアピールすることが、市場開拓の基本です。今年度は、それぞれの生産者が日頃工夫を重ねている「新しい紙」のタネを見つけ、商品化と市場参入への道筋を開くために、ワークショップや展示会などを計画しています。

●次号予告

漉き場探訪

越前和紙の漉き場は今、何を考え、何を試みようとしているのか?産地からの情報発信シリーズとして、漉き場を訪ね、その個性ある取り組みをご紹介します。

和紙を売る現場

今、どのように消費者の目に触れ、和紙はどのように売られ、売り手はどのようなことを感じ、考えているのか?まず京都からお届けします。

編集後記

和紙を愛好し買う立場、職業として使う立場、和紙を売る立場、そして和紙をつくる立場。ひとつのもの(商品・作品)をめぐる多様な思いが錯綜するのは全ての商品に共通ですが、和紙には確かに特殊な事情が多くあります。それが和紙を守り伝えていると同時に、和紙市場の限界にもなっている。良い部分を活かし、新しい展開を見つめて、可能性にトライする動きに注目したいと思います(や)